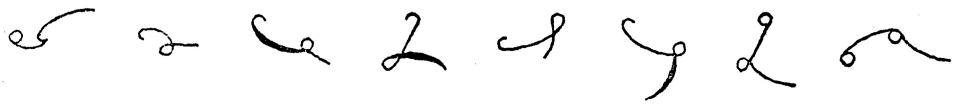

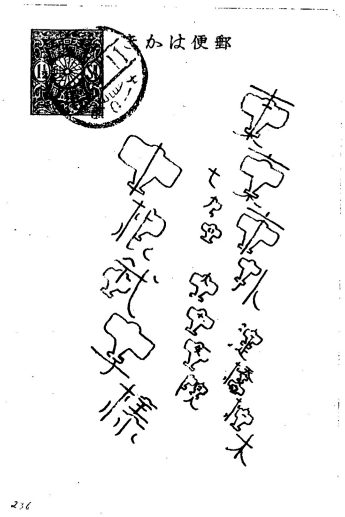

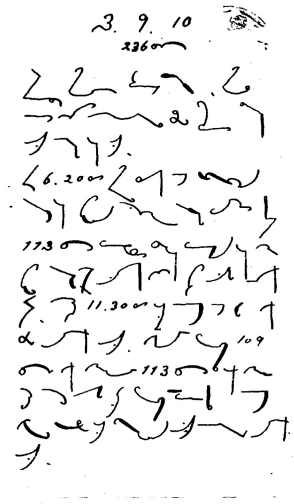

一緒にいるときには出さないのですが、一歩よそに行く時には妹が宿舎に一人残って、寂しいだろうと思うし、また学校の用事は妹が全部してくれるので、その用事もかねて表書きの書体を変えたはがきを出すのです。一千枚目のはがきは台湾高雄の駅前の喫茶店で書いたのでした。

千五百枚目までは表書きに書いていましたが、郵便局で困るだろうと思い、それからは裏の手紙を書くところにやはり毎日々々、中根武子という字を、模様を変えて出したのです。

それから戦争が始まり、有閑はがきは出すなという新聞記事が眼についたので、私のはがきが有閑はがきとは思わないのですが、昭和十九年七月十九日、三千三百三十八枚目で止めたのです。